

目黒区の子どもたちが田植え作業を体験

目黒区緑ヶ丘小学校と北郷小学校の交流も



▲青空の下、両校の子どもたち、先生と一緒に田植えを体験しました。



▲こう植えるんだよ、と指導中



▲田植えの前日、入念に学習しました



▲伊藤稔さんのハウスで。とれたてのトマトを試食。トマトの嫌いな子も「これ、おいしいよ」とご満悦。

なさんと地元北郷地区のボランティアグループのみなさんから田植えのを手ほどきを受け、泥の感触と水の冷たさを感じながら「まなむすめ」の苗をひと株ずつ、ていねいに植えましました。両校の先生も子どもたちと一緒に田植えを行い、五月晴れの空の下、気持ちよい汗を流しながら三〇アールの田んぼすべてを手で植えました。

自分たちで植えた田んぼを眺めながらの昼食には、北郷公民館とボランティアのみなさんからとん汁が振る舞われました。

夜は、青年部のみなさんと楽しい餅つき。田植え作業が無事に終わったことの感謝と、秋の豊作を祈願しました。

三日目は、市内の農家を見学。藤尾の伊藤稔さんのトマトハウスと北郷の森谷茂さんの畜舎を見学し、角田を後にしました。

子どもたちが田植えをした田んぼの様子は、角田市農業振興公社のホームページ「ウエツブマガジン・あぶくま農学校」で七月六日から公開しています。

あぶくま農学校風の塾・定塾が七月六日、仙南シンケンファクトリーで開催されました。当日の講師には、小野田町で農家レストラン「ふみえはらはん」の店主である渋谷文枝さんをお招きして「農業は楽しい私を描く農業」と題し、小野田町の活性化のために野外コンサートの実現と農家レストラン開店の経緯、元気のある農村づくりなどについて講演を頂きました。

講演に続いて、小松光一塾長がコーディネーターとなり、パネルディスカッションを開催。講師の渋谷さん、東京在住の大学生三人、塾生から北林康さん、佐藤吉輝さんが参加して「交流型農業」をテーマに意見が交換されました。塾生のアイデアで自分たちが生産した農産物や農産加工品を持ち寄り、パネラーや参加者が食しながら、農産物の作り方や都市の消費者との交流の仕方などについて、意見が交換されました。



▲講師の渋谷文枝さんからは「女性も力をあわせることで農業の活性化につながるのではないかと話されました。

風の塾・定塾を開催